

平成29年度横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会 及び横浜市都市美対策審議会表彰広報部会合同部会会議録	
議 題	審議事項 議事1 座長の決定について 議事2 第9回横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門について 議事3 その他
日 時	平成30年1月12日（金）午前10時から12時まで
開催場所	関内中央ビル 5階特別会議室
出席委員	横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会委員：奥村玄、植松満美子、齋藤保、田邊寛子、室田昌子 横浜市都市美対策審議会表彰広報部会委員：関和明、大西晴之、鈴木智恵子、中津秀之
欠席委員	塩田久美子
出席した書記	嶋田稔（都市整備局地域まちづくり部長）、石津啓介（都市整備局地域まちづくり部地域まちづくり課長）、梶山祐実（都市整備局企画部都市デザイン室長）、鴫田傑（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）
開催形態	公開（傍聴者なし）
決定事項	賞の意義、あり方については今後の課題事項とし、ポスターデザインについてはいただいた意見をもとに修正をする。
議 事	<p>議事1 座長の決定について</p> <p>○石津書記 それでは議事に入りたいと思います。まず、座長を選出していただきたいと思います。合同部会におきまして、交互に持ち回りとしております。前回は都市美対策審議会表彰広報部会にお願いしましたので、今回の座長は地域まちづくり推進委員会表彰部会の奥村部会長にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>（「異議なし」の声あり）</p> <p>○石津書記 それでは、奥村部会長に座長をお願いします。では、今後の進行は奥村部会長、どうぞよろしくお願いします。</p> <p>○奥村部会長 奥村でございます。何分不慣れなもので、ぎくしゃくするところもたくさんあるかと思いますが、皆さんのお力を頂戴しまして、中身の濃い会議にできればと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>議事2 第9回横浜・人・まち・デザイン賞について</p> <p>資料1から4まで、事務局から説明を行った。</p> <p>○奥村部会長 ありがとうございます。結構中身が盛りだくさんでありますけれども、せっかくの合同部会ですので、垣根を越えて、どしどしいただけるようお願いをしたいと思います。どなたからでも結構ですが、特に資料3と4について、ご意見あるいはご質問がおりの方がいらっしゃいましたらお願いしたいと思います。</p> <p>○植松委員 資料3-2の下の枠のところに改正のポイントがありまして、その4行目のところをもう一度説明していただけますか。これがどういう意味なのかというのが、伺っていてよくわからなかったのです。</p> <p>○事務局 「団体への調査票の作成依頼時に、選考を辞退できる旨を依頼文に記載する」というところですか。</p> <p>○植松委員 はい。</p> <p>○事務局 自薦団体、みずから応募した団体の方については当然このデザイン賞に期待して積極的に調査票等も書いていただけるのですけれども、他薦団体の推薦された団体さんにつきましてはデザイン賞のことは何も知らないまま、突然「この調査票を書いてください」という依頼文が送られてきます。</p> <p>○植松委員 ちょっとそれはというふうにおっしゃる方がいるのですか。</p> <p>○事務局 そうですね。例えば、今、書類を書けるような人がいないというような意見をいただいています。</p> <p>○植松委員 書類が書けないから、結局は選考を辞退することになるということなのですね。</p>

○石津書記 理由はいろいろありますけれども、選考自体を望まれないという場合も決してなくはないと思いますし、辞退することも可能であるということを書いていないと、我々としてもできればということを書いてしまいがちで、地元の方も行政からお願いされていることを、やはり大変だけどやろうかと頑張られるので、そこは割り切って判断していただけるように明記したほうがいいのではないかと思います。

○植松委員 わかりました。どうもありがとうございます。

○奥村部会長 もう何回も書いているのだけれども、何回も選外になったからもう書くのは遠慮したいとかいうような、そういう素朴なところもおありだと思います。

○鈴木委員 改正のポイントのところ、「推薦者の氏名を団体に伝えることができるよう」というふうにあります。氏名というのはどの程度の個人情報を団体のほうに伝えるのですか。名前だけ伝えるのか、それとも住所とかいろいろな細かいものを伝えるのですか。応募者というのは、わかるのは住所と氏名だけですよ。

○事務局 そうです。

○鈴木委員 するとその住所と氏名を、こちらのこういう方から、大変すばらしいことをしているのだというようなことがありましたというのをお伝えするのですか。

○事務局 そうです。

○鈴木委員 先ほど、結構そういうお問い合わせも多いので改正のポイントに入れましたということをおっしゃっていましたが、それはかなり多いのですか。

○事務局 そうです。

○鈴木委員 これは地域まちづくり部門のほうですけども、ではまちなみ景観部門のほうはどうかと、少しひっかかりました。やはりどこから推薦されたのですかなどと聞かれることもあるみたいなので、そういう情報も、まちなみ景観部門はなくてもいいのかなと思ったのです。まちなみ景観は、見ればわかるというのでそういうものは要らないのかもしれないですけども。あと、私は今まで2回まちなみ景観にかかわっているのですけれども、過去に1つの建築物というか景観に対して、何十件という応募が組織的にあったことがありました。

○中津委員 会社じゃなくて地域ですか。

○鈴木委員 そのときは地域みたいです。そういうのも、みんながいいと思うならそのような意見もありますけれども、ひっかかりました。

○奥村部会長 推薦者についてですが、例えば子供がこの景色がいいと思ったなどと言うと、ちょっと見方がこちらも変わって来たりしますよね。

○鈴木委員 子供の美しい目で見ていいと思うのは、本当にいいものかもしれない。

○関部会長 今の話題と少し関連するのですけれども、地域まちづくり部門のほうでは自薦とか他薦の割合というのは数値的にどれくらいなのでしょう。景観のほうは圧倒的に他薦が多いというふうに認識しているのですけれども、推薦者についてデータ的にお教えいただければありがたいです。

○事務局 第8回に関しては、自薦が13、他薦が23でした。

○中津委員 他薦のものは、推薦された方と推薦された対象との距離感というのはどういうものが多いのですか。近くに住んでいるとか、たまたま立ち寄ったとか、そういうのはどういう距離感なのですか。

○事務局 推薦者の方と推薦した活動との関係ですね。そこまでは調査していないのでわかりません。

○鈴木委員 地域まちづくりのほうだと、やはり割と近くの方でないとその活動自体知らないというか、そういうことをやっているという情報が、例えば港北区の活動が中区とかあの辺でわかるかというと、そういうのはわからないというのはありますよね。だから、その地域でご存じの方が推薦される場合が多いのではないかなと推察します。

○中津委員 景観に関して言っても、自薦とか他薦とか言っても、設計した会社の社員かもしれないし、そこを本当に愛して使っている喫茶店の常連客かもしれないし、ちょっとその辺を知りたいといえれば知りたいというか、知るべきかどうかかわからないですけども。

私はまちなみ景観部門ですが、個人的には地域まちづくり部門のほうに近い気がしていて、昨年を選んでいただいてありがとうございます。六浦東のまち普請をやらせていただいております。この会の関係より、市の姿勢、このデザイン賞にどれぐらいの重きを置いて、市全体として考えるかということ、もうちょっと根底から議論してほしいなという気がしています。

1960年代、70年代にかけて、都市のデザインに関して横浜はトップランナーみたいな位置づけだった

たと思うのですけれども、それが今どうなっているかよくわかりませんが、50年たって、これからの横浜市のブランド、売りというか、その中でこういう都市のデザインとまちづくり、一般的にハードとソフトみたいに簡単に言われることがありますけれども、それがミックスした、相乗効果があるような表彰制度を持っているということを、横浜市の売りとしてどういうふうに位置づけていくか。当然、公開の仕方とか、そういうものを子供たちの地域ブランドにどういうふうにと落ちていくかとか、横浜の町で生まれ育った人たちが、俺たちは横浜なのだということを一生持ち続けて、住み続けてもらえるような町にするために、どういうふうはこの表彰制度を使っていくか、どういうふうに関所として重きを置いているかということ、行政の内部でもどういう議論をしているか知りたいし、今後それをどのように私たちがバックアップしていくべきかという、心の準備みたいなものを明確にしたほうがいいのではないのかなと思います。各論のことをよく知らないの、総論的な話で申しわけないのです。

今この審議は公開で、傍聴者がどれだけいるかとか、そういうことが多分根底にあると思うのです。こういう議論を今こういうふう集まってやるということ、もっと市民の方々が、おお、すごいなと思うような広報プロセスで、傍聴者が並んで入れないぐらいになるような、イベントという失礼かもしれないですけども、そういうことをもっとやるのが、60年代、70年代の横浜と違う、次の大きなことではないかなと思います。これはすごく価値のある賞なので、ぜひそういうことを議論したほうがいいかなという気がしています。

○奥村部会長 ほかの方でも今の中津委員に次いでご意見おありでしょうか。

○室田委員 やはりこういったことをかなり長い年月やってこられていて、そうすると今までの蓄積も相当いっぱいあるという中で、毎年それぞれ公表されて、リーフレットみたいなものは毎年つくってらっしゃると思うのですけれども、本当はいっぱい蓄積があるわけですよね。一個一個全部チェックして見ていくのは、なかなか皆さんも、よっぽど関心がないと途中でやめてしまうかもしれませんけれども、本当はそれを、例えば地域ごとに少しまとめて、さっきこちらで配っていただいた観光の資源の一つにもなるかもしれませんし、あるいは地域をもう一遍見直してみようというようなことの、一つの資源になるかもしれません。今、総合学習とか、そういうのを小学校で結構やっていますので、そういったところでも、例えば景観まちづくりの総合学習プログラム、あるいは環境学習の総合学習プログラムなどがあり、そういうものをいろいろ開発していきたいというのが一方あります。そういう意味では、受賞された事例はそういったものの宝庫みたいな感じなのです。これを使うと、本当にいろいろなことが実はいっぱいできるのに、そんなに使われていないとすると大変もったいないなと思います。毎年、はい、やりました、というふう公表されて、使いたいなら勝手にどうぞみたいな感じのところもあるような気がするかもしれません。今、中津委員が言われたように、何かちょっとまとめるようなこととか、あるいはせつかくのこういったものを、もう少し生かしていく方向であるとか、いろいろな観光ルート、見学ルート、あるいは学習ルートなり、そういったルート化をしてもよいのかなと思いますので、そんなことも今後の課題として、すぐにという話ではないかもしれませんが、でも、ちょっとずつやっていかないと、いつまでたっても進みませんので、そういうことを考えていただくと大変よろしいかなという気がしました。せつかく地域まちづくり部門とまちなみ景観部門がありますので、どこかで一緒にまとめると、こういう建物のすばらしさと活動のすばらしさって、どこかでリンクしてくる部分も見えてくると思いますので、ぜひ一体的なまとめということをやっているといいかなと思います。

○鈴木委員 長い歴史がある賞ということで、一市民としてこの賞がどういうふうに見えてきたかということ、申し上げますと、最初のころ、昭和60年代ぐらいの横浜まちなみ景観賞に限って言わせていただくと、その当時の横浜市は都市デザインの先進的な都市としてパワーがあった時代ですので、すごく権威のあるような賞に見えたのです。実際に受賞しているものも、例えば横浜ベイブリッジとか、そういういわゆる人々の記憶に残るような有名建築とか、有名な景観、そういうものが多くて、私はその当時からシンポジウムなどをやるたびにパネル展などをやっていたけれども、すごく権威のある賞だなというイメージが大きくて、でもその当時から市民から公募していたというのは、そのときは全然知りませんでした。偉い人が選んでいる賞のような感じがしたのです。一市民として見て、わあ、すごいな、こんな景観が賞をとって。みたいな感じだったので、今は庶民的ですよ。ある意味ではそういう権威的なものではなくて、そういう点から見るとステータスみたいな、この賞をどうしても欲しいとか、これをとったらすごい、例えばPRになるというか、それほどのものではなく、当時のほうがそういう意味ではステータスが高かったというか、権威的な感じがしました。実際に受賞しているものも、最近では割合と身近な景観のいいところを見ていこ

うみたいなところもたくさん取り上げていて、それはそれでやはり素晴らしいことなので、どっちが
というか、バランスの問題だと思えるのですけれども、そういう点ではこの賞も30年以上たっています
ので、中津先生がおっしゃるように権威的なものを狙うのか、それとも地域に密着したものを狙うの
かとか、その辺のバランスを考えたほうがいいかもしれません。当時から市民から公募というのは随
分すごいことだったのではないかなと思います。まだそんなに都市デザインとか、60年ぐらいたど少
しずつ市民の、意識がある人がちょっと興味を持ってきたという時代なので、一般的にはそういうと
ころに興味はほとんどの人がなかったと思いますので、当時から市民の公募というのはすごかったの
だなと改めて思います。

○奥村部会長 ありがとうございます。齋藤委員、どうぞ、お願いします。

○齋藤委員 今のお話と関連してなのですけれども、このデザイン賞そのものがブランドというか、
価値をどういう方向に持っていくのかという中期ビジョンみたいなものが今改めて必要なのかなとい
うふうにお話を伺っていて感じました。私どもも実は2009年と13年に二度地域まちづくり部門で、運
営している港南台タウンカフェという、コミュニティカフェなのですけれども、表彰いただきまし
て、非常に立派な表彰式に参加をさせていただき、盾もいただいてということで、自分たちの組織の
中ではある一つのステータスがあったのですけれども、地域で暮らしている住民の方とか、それをサ
ポートしているちょっと外側の人たちにとってみて、自分事になっていたかということ、ほとんど知ら
れていなかったり、例えば区役所の所管の課の地域振興課の方とかもご存じなのかどうかもわからな
いくらいでした。横浜の中心部で表彰式があって、ホームページに当然載って、というところまでの
プロセスはいいのですが、特に地域まちづくり部門というのは区レベルとか中学校くらいの中での活
動が非常に多いので、その人たちに認知してもらって、共感を得て、さらに活動が進んでいくとい
うところがすごく重要なポイントかなというふうに思っているのです、そういった意味で僕らみたい
な狭い地域で活動している団体にとってみると、その地域の中でこれを一つの価値として見てもら
えるような何か仕掛けみたいなものが、例えばブックレットをつくってそこに載ったよということが
いいのはわからないのですけれども、今後議論していく価値がある内容なのかなと感じました。

○大西委員 皆さんの話を伺ってまして、確かに横浜市といっても非常に広い地域で、業務的な、
中区や西区のような地域と、住宅地であるような地域と、あるいはまだ畑などが中心に残っているよ
うな地域と、いろいろ幅が広いと思うのです。そういった中において、こういう優れたものにつ
いて表彰するというのは非常に意味があるということは、私もそのとおриだと思えるのですけれど
も、その対象によって全然選考の考え方が違ってきてしまいます。例えば商工会議所では、中期計
画として、横浜再生のための横浜ルネッサンスというような、一つのキャッチフレーズを上げて
います。そういうことをしていかなないと、都市間競争、あるいは人口減少にどうやってこれか
ら対処していくのかというような発想が強くなるわけです。住宅地においては、もっと身近な生
活レベル、子供を対象にということで、当然こういうものがあっても捉え方が違ってきてしま
います。私もこの委員に初めて指名されたものですから、過去のことはよくわかっていないの
ですが、いざたくさん応募があって、選考段階になって、どこに基準を置いて選考し、決
めていくのかという点がなかなか難しいのではないのかなという感じがいたしました。

○奥村部会長 ありがとうございます。受賞した方たちが当事者だけ喜んで、波紋が広が
っていく様子まではなかなか見えてこないというのが少し問題かなと、皆さん共通認識を持
たれていらっしゃると思います。そういう意味ではパネル展など、区で巡回していくとい
うような取組はまだ緒についたばかりだということで、これから、室田委員、齋藤委員も
言っておられましたけれども、区の方たちがきちっとそのことを理解して、いろ
いろな展開で活用していくというような、煎じ詰めて言うとそれが文化になっ
ていくような方向がないと、単純に表彰して終わってしまったということになりか
ないということです。今後の展開のところでは、非常にいい方向が出てきたのではない
かなというふうに思いますが、いかがでしょうか。関部会長、お願いします。

○関部会長 今話題になっていることは、まちなみ景観部門でも、一番大きな課題ではないかと、前
回の部会で指摘されました。配付された資料の中で、幾つか意見を取り入れようとい
うことであると思えるのですけれども、それは私の考えでは今始まったことではなくて、
既にそういうまちづくりをやっている、直接目に見えない人々の活動というものと、ある
事業者がいて、何かをつくって形になって、それが景観の一部としてという、その両
方の関係というのがやはり一番大事だと思うのです。もののほうからいえば、つく
ってつくられっぱなしで、ただ「いいね」で終わってしまうのではなくて、それ
をもっと活用していくとか、古い建物を保存して、それをうまく活用して、それが
町の中で、一つのいろいろなまちづくり活動の拠点になるみたいなこととか、最近
は空き家のことなどいっ

ばいあると思うのです。多分昭和60年にこういう賞ができたときの、派手なランドマークがたくさんという時代ではなくなってきているので、逆に言うと身近なまちづくりの価値とか、景観のことというのが、より大事になってきているのかなと思います。おっしゃるように地域が広いので、あるエリアだけに閉じられがちになり、知る人ぞ知るになってしまうという、言い方は悪いですがでもマニャックな世界になってきてしまうと、なかなか普及していかないという両面があるので、その辺のアンビバレントをどうしていくかというのは、大きな課題だと思います。すぐそれを、来年からどうするというのではないと思うのですけれども、たまたま9回目でのやり方でいいのか、ということが課題になってきているので、いい機会ですから少し議論を、まさに両方の部会で一緒にやるのが一番わかりやすいかなと思うのです。

質問になりますけれども、まちづくり活動のほうの議論の中で、逆にこちらが何かハードがつくられて、それを美しい、いいということで表彰しているそのやり方について、もっと景観とまちづくりの関係について、多分そちらの部会でもいろいろ議論されているのではないかなと思うのですけれども、どうお考えでしょうか。先ほどのメモの中で、こちらのほうでは景観について関連しているソフト面のことも我々が選考するときに少しポイントにできるということで、今の基準にもあるのですけれども、それから運営者も対象となるということがあるのですけれども、その辺を少し強く出していくような必要があると我々のほうは考えましたが、そちらのほうから何かあるのでしょうか。ちょっと質問の仕方がうまくないのですけれども、もしそういう議論があったら紹介していただくとありがたいなと思った次第です。

○奥村部会長 どうですか、田邊委員。活動されている方たちを私たちは表彰するわけですが、それが形に結びついていることも意識しながら表彰の対象として考えているかどうかというご質問ですね。

○関部会長 例えば、前回のもので、写真が8つあるうちの、2段目の左側のこのスペースというのは、まさにまちづくり活動と連携して地域の方がほとんどセルフビルドでつくられたようなこともありました。そういうものもこちらでは出てきているので、直接建物とかそういうものにならなくても、何かふっと通りかかった人がわかるようなものをつくるような活動というものが上がってくると、こちらも着目していきたいという、具体的に言うとそういう感じです。

○田邊委員 今の「夢の舞う岡」というのは、多分まちづくり部門のほうでも応募対象になるものだと思います。なので、先ほど鈴木委員が、最初の権威のある賞から少しずつアーバンデザインのものがもう少し住民発意というか、計画から実行の方向に動いてきている世の中で、こういう、今の4番のような活動が同時多発的に横浜に起こりつつある、それを支援する。まち普請もそうだと思うのですけれども、それを自力だけではなくて、支援していただくようなシステムがあるというのは横浜の強みかなとは思いますが、先ほど中津委員がおっしゃられた、またその後の議論であった、それがやはり単発で見えてしまっていてというのが、横浜の今後のことのもったいなさなのかもしれないなとすごく思うのです。今のご質問のほうにはつながらないのですけれども、資料4にある部門ごとの議論の中で、まちなみ部門のほうの(2)のところ、街歩きの方々と組んで、要は見える化をどんどんしていくという、街を歩いていて、そういう活動があるのだなというのがわかるようにしていくというのがとても大事だなと思っています。では、私たちのほうの部門でそれがどう展開できるかな、そういうのいいな、というふうに単純にこの議論をお伺いして思っていたのですが、例えば今空前の街歩きブームというふうに言われていますけれども、そういうことと絡めていくというのはとても大事ななと思いました。

あと、まちづくり部門のほうですけれども、私はまちづくりをなさっている方々を支援するのが仕事なのですが、例えば先ほど皆さんの中で総合学習の話が出ていましたけれども、子供たちがその町に、自分たちがその町にアクションを起こしていいのだ、当たり前なのだというようなことを、普通に感じるようなことというのはすごく大事だと思っています。例えば、離島とかですけれども、子供たちは大学を出るために島を出ていってしまうのだけれども、何か人生の岐路に立ったときに、もう一度島に戻ろうですとか、そういうことを選択するためには、自分の育った地域がどれだけ魅力的かということを知っていないと戻ることもしない。そういうようなことで、子供ガイドという形で街歩きのガイドを教育としてやっている地域もいっぱいあるのですけれども、その町にどういう人たちが生きてきて、どういうふうにアクションをして、だからこういう環境が保たれているのだということを、やはり積極的に伝えていくというのがとても大事だなと思っています。なので、ぜひこの4番の活動もそうだと思うのですが、目に見える形で皆さんがアクションを起こしている、その結果が見える化しているというようなことをしっかり学校教育のほうでも広報する。パネ

ル展をするようなことだけではなくて、教育としてつなげていくというようなことが、横浜市の中で位置づけられていくと、より一層地域ブランド化にもつながるのではないのかなと思っています。取りとめもない話になってしまったのですが、まちなみ景観部門の、こういう一つの単体だけではなくて、そこに派生するような行為というのも、ぜひフォーカスされるようなことになってほしいなと思います。

○関部会長 ありがとうございます。よくわかりました。

○奥村部会長 恐らく、地域まちづくり部門の事例の写真を拝見すると、そこに必ず人が入っているということが大きな要素かなというふうに思いました。できたものは景観かもわからないのですけども、つくり続けるというエネルギーが持続しているということで初めて成立するのがまちづくり部門の特色なのかなというふうに思っております。

○関部会長 景観のほうの写真は全然人が入っていない。

○奥村部会長 その形が成り立たせている、形を支えるエネルギーみたいなものがどこかにやはり必ずあるはずで、それが教育なのかもわかりませんが、よく目で磨くという言い方があるかと思うのですが、みんながそっぽを向いていると、景観もだんだん寂れていってしまうような、そういう部分もきっとあるのだと思うので、そういう活動がやはり景観においてももう少し伝わってくるような評価の仕方というのがあるのかと思いました。特に2番目の「まちの活性化に寄与し、賑わいのある都市景観を形成しているもの」というあたりは、活用という言葉を使うとすごくありきたりに見えてしまうのですが、どのような愛され方をしているのかという、その辺のストーリーがきつとたくさんあるのだらうと思いついて拝見しておりました。

○石津書記 事務局から状況を説明させていただきたいと思います。さまざまなご意見をありがとうございました。この顕彰事業は、60年度からやっております、横浜市のまちなみと景観は、やはり市民力です。コミュニティーの力とか市民の力で支えてきた気運が大きいと思いますので、そういった意味でも大変意義のある賞だと思っておりますし、またよりそういうふうになるように、今後運営でいろいろな工夫をしていきたいと思っています。

PRについて、先ほど景観の部会のほうでも答えにありましたけれども、さまざまな方法でやっていくことにしていますので、リーフレットやパネル展、そういったものにとどまらず、今3つの課と室がかかわっていますけれども、そこが直接、別にこの賞ということだけではなくののですが、まちづくりや景観のイベントとか、広報とかがありますので、そういったときにいろいろ活用したり、あるいは区や市民局、他局のいろいろなイベントなどにもこういった受賞した方を紹介したことがありますし、あと国の賞なんかに推薦させていただいて、毎年2団体が大臣賞を受賞していますので、そういったことを可能な限りやっていきたいと思っています。

それから、地域のほうから、先ほどいただいたご意見のような面もあるかと思いますが、地域で賞を受けたことによっていろいろ認知度が高まったという声をかなりいただいています、その代表的なものを、次の説明資料、資料5の2枚目のA3判の資料をごらんいただきたいのですが、ここの左の地域まちづくり部門の紹介で、真ん中に「受賞活動の例」とあります。これは第3回ですので、もう十数年前に受賞した、神奈川区の片倉うさぎ山公園のプレイパークの運営についてです。ここに受賞者のコメントと書いてあるのですが、読ませていただきますと、「当時プレイパークの認知度はまだ低く、地域のママが公園に集まって何をしているのかと思われる時期でした。受賞後、連合町内会の方々を招いて開いたお祝いの会で、地域の方たちと受賞を喜び合うことができ、以降「単なるママさんたちの活動ではなく、地域の活動」という認識に変わり、一丸となってプレイパークを盛り上げようという機運が高まりました。」というコメントいただいておりますけれども、まさにこういった声です。地縁型コミュニティーが認知されたとか、あとタウン誌などに出て周知されたとか、非常によく聞いていますので、もちろんそうではない場合もあるかもしれませんが、こういった声がいただけるようにしていきたいと思っています。

それと、区役所、庁内他局、他課についても、特に近年は福祉とか、あるいは生涯学習の部門とか、そういったところとの連携に力を入れており、そういった部分の認知度も徐々に高まってきているかと思っておりますので、引き続き頑張っていきたいと思っています。また運営についてはぜひ具体的な何かアイデアなどがありましたら、部会の場だけに限らずご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○奥村部会長 ありがとうございます。中津委員に投げいただいたボールで、大分掘り下げたやりとりができたのではないかなと思います。景観の教育についてのキットみたいなものをつくられていらっしゃるというお話もいただきまして、実は時計が少し気になり始めていて、次の議論ができなく

なるかなと思っているのですけれども、ちょっとアナウンスしていただくというのは可能でしょうか。

○事務局 先ほどご紹介したのですが、何年前から国のモデルプログラムを使った助成事業、都市文化振興財団というところで景観まちづくりに取り組んだ学校について10万円、資料作成や、講師派遣などに対して助成できる制度があって、そのPRから始めたのですが、その中で学校の先生たちとやりとりしていく中で、先生向けに景観を切り口にしたパンフレット、景観まちづくり学習に先生に取り組んでもらうためのリーフレットをつくろうという話になって、昨年度これを作成し、今年度印刷して、各学校、全校に配付をさせていただいております。これは学校の先生向けということで、生徒さんの写真とかがあるので、今お配りできないのですけれども、こういったものをPRしつつ、今年度に入ってから、デザイン室と一緒にある学校に行き、出前授業のような形にチャレンジしたり、徐々にですけども取り組んでいます。その中で、授業の中でも使えるキットみたいなものを開発していけたらいいなというような話もしているところで、まさに今取り組んでいるところです。

○奥村部会長 ありがとうございます。それでは、このことについて議論しておきたいということがおありでしたらご提案ください、何かおありですか。

○関部会長 議論というよりは、多分景観のほうの現状で、どうしても都心部に受賞対象が集中していて、郊外部で、たくさんの方がありますけれども、まだ一つも受賞された案件がなかったみたいなことが少し話題になったので、その辺も。まちづくりのほうは、どちらかというとも郊外部のほう盛んなようですね。

○奥村部会長 そうですね。比較的全区に広がって。

○関部会長 そうですね。ですので、そこでもいろいろ連携しながら、こちらの部会のほうで考えていくテーマがあるのではないかなと思っています。

○奥村部会長 そうですね。

○関部会長 気をとめていただければと思います。

○鈴木委員 今の関部会長の言葉に続いてなのですが、横浜市って、先ほど大西委員がおっしゃいましたように18区あって、離れてしまっていると全然わからないのです。私は港北区にずっと住んでいるのですけれども、隣の、例えば都筑区とか緑区とかになると、そんなにわからないのです。1つの区自体、港北区自体が結構大きくなっているのです。たまたま機会があって、都筑区の町内の方とつき合うようなことがあって、ちょっと勉強したら、すてきな景観とか、まちづくりの活動をやっている人とかも結構いるということがわかったのです。わかったのだけれども、応募は出てこない。例えば港北区の人が都筑区のことを推薦しないとか、そういうところがあります。実は郊外部にもいい景観とかもいっぱいあるのです。だけど出てこないというのは、やはり区役所がそういうことをよくわかって、本当は区のまちづくりとか、各区に1人くらいはそういう担当がいればいいのか、そういう人がいないから、こういう賞があることも知らないし、区でもそんなにそういうことをPRしなくて、どうしても出てこないから、拾えないとか、応募してもらえない。幾らいい景観があったって、これに賞をあげましょうというふうにはならない。市民からの推薦、応募がなければだめなのだから。だから、やはり何も都心部だけがいい景観であるわけではなくて、最近自然系のもも結構出てきているので、そういう自然の公園であるとか、緑道とか、そういうものだとすごく工夫してやって、地域で守っているというようなところも郊外部にはいっぱいあるので、そういうところからどんどん地域から応募してもらったり、または他区の人が推薦したりという、そういう仕組みをつくっていかなければいけないのではないのでしょうか。区役所の、そういう都心の区の職員の方たちはそういう意識が高いのですけれども、郊外部の方って、うちは田舎だからみたいな感じで言われてしまったりすることもあるので、そうではなくて、区役所の担当者のレベルアップとか、そういうのを図るところまでいかないと、18区に広がっていかないと思うのです。それはかなり大事なことで、さっき大西委員が都心と郊外の住宅地とか、そういうところが全然違うと、本当におっしゃるとおりなので、だけどある程度そういうところからも出てきてもらわないと、横浜市全体の、全部都市化すればいいというものではないです。いい景観というのが、こういうものがある、というのを、やはりみんながわからなくてはいけませんし、それぞれの区も誇りを持ってもらわなければいけないしというので、やはり本当に区役所の担当者のレベルにかかっていると思うので、そういうことを働きかけるような仕組みづくりをぜひしていただきたいです。

○中津委員 区役所はいろいろ温度差はあるかもしれないのですけれども、むしろ批判するよりは応援してあげたほうがいいかなといつも思っているわけです。区の話は本当に重要なことで、区役所が本庁の出先機関である時代はもう終わっていると思っているのです。これから区役所が主人公になっ

て、それをどういうふうにも本庁がサポートするかということのほうが重要で、そのために今の冊子はすごく重要で、教育のことにに関して特に重要だと思うのですが、区の校長会とか、そういうのがやはりベースになっているわけですから、区がどういうふうにも、こういう審議した内容を使っていくかということをごんごん区ごとに特徴を出してやってもらうのはすごく重要なのです。そういう冊子をつくるのであれば、多分一番最後のほうに「横浜まち町すごろく」みたいなものをつくって、18個あって、平仮名のまちと、漢字の町で、まちづくりと景観みたいなことで、自分たちの区はここだよ、隣の区はこんなことをやっているんだよねとわかるようなものをもっとやったら、子供たちもわかるかなと。そういう、区と区がもっと特徴づけて、ブランディング化されて、その次にそれを連携するとか、それを区ごとに観光に入っていくとか、いろいろな連携をするということを考えるのが順番としてはいいかなと、そういう時代かなと思っています。だから、連携ってすごく重要なキーワードで、区と区の連携、そのために区がどれだけ強くなるかということだし、例えば行政の部局間連携というのも当然そうだし、これは社会福祉的なことであつたり、教育の話が入ってきているのに、そういう方たちが座っていないとか、そういうのを統合するようなことをコーディネーターとしてごんごんやっていただくといいかなという気はします。

○奥村部会長 ありがとうございます。

○石津書記 ご意見ありがとうございます。区役所については、実際数までは把握していませんけれども、これは両方とも他薦が可能なのですが、他薦の中にはかなり区の職員も実際にたくさん入っております。あと、区については、昭和の終わりのころから、都市デザイン室が郊外の魅力づくりを始めたころから、その取り組みを都市デザイン室が直接自分たちだけでやっているわけにはいかないので、区の区政推進課などと連携して取り組んでいた成果がありまして、そういったものから十数年前には区に技術職、係長職員2名を配置して、まちづくり担当ということできざまな取り組み、私どもの制度を使って、私どもが支援するというより、区のほうが主体になって支援しているような、地元との魅力づくりというような取組がありますので、かなりそういった意味では、もちろん先生方からするとまだもうちょっとと思うところがあるかもしれませんが、レベルがごんごん高くなっているのかなと思っています。

ただ、まちなみ景観部門については、やはりどちらかという、昔はバイブリッジが受賞したと、そういうことからすると、やはり対象がどこまで身近なものまで広がるのかというのが見えないところもあって、もしかしたらそういった身近な案件が少なかったかもしれないですけども、特に前回、舞岡の「夢の舞う岡」、こういったかなり小ぢんまりしているけれども、その価値というのがきちんとして評価されたということは、我々とか区役所にとってすごくインパクトのあることで、まさに身近なちょっとした景観みたいなものも受賞できるのだということは、区役所のほうにもぜひPRして、こういったものもたくさん応募が出てくるような感じにしていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

○奥村部会長 ありがとうございます。横浜そのものを自慢できるということもとてもいいことだと思うのですが、自分の住む町を自慢できる、そういうようなところに結びついていく賞でありたいなと。庶民化することは、そういういい面もきっとありますね。

それでは、まだ話題にされたいことが幾つもおありだと思うのですが、少し先に進ませていただいてもよろしいでしょうか。今、リーフレットのことに付いて少し触れていただきましたけれども、それもあわせて資料の説明をお願いできますか。

資料5から11まで、事務局から説明を行った。

○奥村部会長 ご説明をありがとうございます。それでは主にリーフレットとポスターについて、皆様のご感想・ご意見をいただければと思います。どなたでも結構です。どうぞ、お願いします。

○植松委員 募集に関する広報についてという、資料7です。募集リーフレット・ポスター配布先というところの、一番下の中間支援組織というところですが、地区センターはこの中にもう入っていますか。それとも、改めて入れていただくことはできるでしょうか。

○事務局 はい。地区センターのほうにも配布はしております。備考のところ書き切れなかったので、等というところの中に入っております。

○植松委員 承知しました。各自自治会・町内会のところまでは行かないのですね。

○事務局 そうですね。自治会・町内会のほうには配布する予定はございません。

○鈴木委員 今のことに付いて言いますと、横浜の区ごととか、地域のウェブ新聞みたいなものが

ありますよね。あれは割合と地域のことをチェックする人は見ているので、例えば日吉だと横浜日吉新聞とか何か、あるのです。

○中津委員 経済新聞ですね。

○鈴木委員 港北経済新聞、新横浜なんかだと新横浜新聞というのがありますから、ああいうところにも出すと、割合といいのではないかなと思います。

○事務局 広報として出すと、恐らく広告掲載料とかというのがかかってきますので、そういったところにも情報提供はさせていただいております。タウンニュースもしかりですけれども、あと横浜経済新聞ですね。その中で記事にさせていただけるようお願いはしているところです。

○奥村部会長 タウンニュースなんか、随分見られていると聞きますね。

○田邊委員 このリーフレットのまちなみ景観部門の真ん中のところなのですが、先ほど受賞された作品の写真で、まちづくり部門とまちなみ景観部門で人の写真が載っていないよというようなことですとか、あと環境保全系のことというのは、応募はあるけれどもなかなかそれを評価できないですとかというようなことがあったかと思うのですけれども、例えば、応募要件の中でまちなみ景観部門のところの「まちなみ」や「建造物」であることのような指定があるのですけれども、その前の上にある「まちなみ景観部門の募集にあたって」というところは、もう少し緩やかなことが書いてあります。例えば、地味に山を守っていらっしゃる、環境保全されていらっしゃるとか、そういうことが最初は入りそうなのかなと思うけれども、このまちなみ景観部門に入らないのだというような、ちょっとここにギャップがあるのではないかなと思うのです。

○鈴木委員 10年以内という制約がありますよね。新しくつくられたもので、あと、再生しても10年という、そうすると40年も50年も前からずっとあるものというのは対象外になってしまいますよね。時々、古いものの応募もあって、でもそれは10年以上、例えば20年だからなんていうような、だから対象にはならないとかって、そういう例も時々見たことがあります。

○関部会長 里山の風景とか、棚田とか、森とかがあるのですけれども、このまちなみ景観でも最終的に表彰するのはある対象物をつくった人とかになってしまうのです。そこで、その里山の景観を保全していろいろ手入れされている方みたいなものがあれば、それは多分まちづくりのほうになるみたいなことが過去幾つかありました。とてもきれいな場所なのだけでも、ではこれは誰がつくったのかというのが問題になります。自然景観に近いものは素晴らしいのだけれども、なかなか表彰対象にならないみたいなことがありました。

○田邊委員 ちなみに、応募として上がってきたけれども対象外だということで、こちらにご紹介というのはやっているのですか。

○関部会長 どうでしょうか。振り分けは行っていますか。

○田邊委員 要件外だから、ではなくて、まちなみ景観部門から地域まちづくり部門への振り分けというのはあるのですか。

○石津書記 それは先ほど書いてありましたとおり、両部門で連携してということはやりますし、過去にも実は、第4回に横浜動物の森公園というのがまちなみ景観部門に応募がありまして、それは要件に当たらないということだけではなくて、活動で審査したほうがいいのではないかという判断があって、事務局が判断して、応募者にも確認をとって、部門を変更したというのがございます。それと過去の受賞例の中にも、環境とか、古民家をめぐるとか、自然環境とか、そういった活動で評価されているものもございますので、単純にまちなみ景観部門の10年とかでやるのではなくて、もしそれが市民の活動に伴って脚光を浴びているのであれば、こちらの部門に振りかえて選考していただくことも可能だと思います。これまでもやってきましたし、今後もしっかりやっていきたいなと思っております。

○中津委員 そういう意味であれば、例えば環境創造局の表彰制度とか、何かそういう他部局でのいろいろなものもかわり合いがある可能性もありますよね。そういうのも、どういうふうにパラレルで紹介されているのかよくわからないですけれども、ホームページ上全然違うところに行かないとそういうのが載っていないとか、ハマロードサポーターとかはまちづくりではないとか、いろいろ考えることがありますよね。そういうのも、もうちょっと本当はネットワーク的に、担当の方がこういうところにいたほうがいいのではないかなという気がするのです。

○鈴木委員 緑なんかだと、環境創造局になってしまう。

○中津委員 緑は環境創造で、そっちでちゃんと助成金もあるし、表彰制度もあるし、まちづくりがだめだからそっちで出そうとか、住民の人たちは言っています。

○鈴木委員 もともとまちなみ景観というのは、建築物と土木みたいな感じで、その両方から上がっ

てくるものをというものだったと思うのです。だけど、まちなみの景観というものが今はもうちょっと広く捉えられるようになったから、例えば公園とか、自然の環境のほうなんかまで広がりを持ってきているので、代々の受賞しているものを見ると、そんな感じもしますから、境界が曖昧になってきている。その辺をどういうふうに関連したり、ある意味では分けたりとか、その辺の整理というのも、30年ぐらいたつと、今は確かに必要になってきているのかもしれない。

○石津書記 この賞については、そういった環境創造とか道路に限らず、全局、全区にきちんと周知して、共有を図って、何か関係するもの、該当するものがあれば推薦していただきたいということはお願ひしているところです。あと、各局もいろいろ賞を持っているところは、基本的にそういう形でやっていますし、個別にも、特にこういった賞を持っている部門は、実は中では、こっちでやっている活動をうちでも表彰できそうだとか、どんな活動というような情報共有は絶えずやっておりますので、そういった意識はしっかり持ってやっていきたいなと思っています。外に見える形で、ウェブ上などでそれをどうリンクさせるかというのは、やり方を含めて今後の検討課題かなと思っています。

○中津委員 教科書にそういうのが入っていくほうがいいですよ。

○齋藤委員 先ほど、パンフレットとポスターのご説明をいただきまして、昨年度までに比べてこういうキャッチフレーズとか呼びかけがすごくわかりやすく、シンプルで、よくなったというふうに思います。ポスターについては、個人的な感想なのですが、ポスターだけを見て応募されるということはほぼなく、通常はウェブサイトを見たり、パンフレットを入手されるかと思うので、もう少しシンプルでもいいのかなと。この中央にある、2つのブロックの写真を思い切ってもう削ってしまうくらいでも、逆にインパクトが出てきていいのかなと思うのですが、ただ、なかなかそうもいかないということであれば、若干まちなみ景観部門の写真サイズを小さくして、オレンジの部分とグリーンの部分の上下をそろえるくらいにすっきりさせてもいいのかなと感想として思いました。

あと広報なのですが、これはどこかに入っているのかもしれないのですが、市商連とか区商連あたりは対象に入っているのでしょうか。商店街関係もかなりまちづくりを盛んにやっているところもあります。

○事務局 なるほど。わかりました。そちらのほうは検討させていただきたいと思います。

○齋藤委員 区役所経由で行くのかなとも思うのですが、その確認が1点と、あとSNSを使った広報というのは今回特に記載がないようなのですが、先ほどの「Find Your Yokohama」のように、例えば、この人・まち・デザイン賞としてのオフィシャルサイトをつくるのかとか、どこかにうまく載せていたりですとか、もし予算があれば、フェイスブックとかの広告って意外と安く、費用対効果がいい、対象がかなり絞れますので、エリアですとかまちづくりに関心がある人に絞って、数千円から数万円程度でかなり広告効果も出てくると思います。そういったところに少し絞ってみると、まちづくりをやっている人はSNSを使っている比率がかなり高いと思いますので、そういった効果的な広告も若干予算を使ってやってもいいのかなというふうに少し感じました。

○奥村部会長 ありがとうございます。

○中津委員 個人的な恥ずかしい告白ではあるのですが、「横浜・人・まち・デザイン」と、これは全部中黒で4つの単語が並んでいるのを、私は勝手に深読みしてみたいなのですが、人とまちというのがセットで、横浜における人とまちのデザイン賞と、人とまちのところがパラレルで、柱で立っているということなのですね。人からまちということと、デザインからまちということで、まちを中心に人とデザインなのかなと勝手に思っていたのですが、このデザインを見て初めてそれに気づいたというのが恥ずかしい告白です。そうすると、人とまちというのはもうちょっと、こういうふうに左そろえて並んでしまうと、何かヒエラルキーを感じてしまうなという気がして、本当は人とまちというのが、人がまちづくりで、まちというのがまちなみとか、ソフトとハードのイメージなのであれば、このあたりはセンタリングのほうがいいと思います。何かもうちょっとパラレルということを強調するような、人とまちの2つの単語のデザイン、この部分を考えたほうがいいと個人的には思いました。デザインって、要はデザイン賞なのですね。そうすると、まちづくりの人たちはデザインということとちょっとつながらないのかなという気がして、賞の名前は決まっていることなので、何かこのあたりの配列がうまいことかかないかなと思ったのです。

○奥村部会長 人のデザインということにはなかなかならないということですね、言葉のつながりとしてね。

○鈴木委員 こちらは、パンフレットとポスターはつくるけれど、チラシみたいなものはつくらないのですよね。やはりデザイン賞なので、さっき齋藤委員がおっしゃったように、このポスターはちょ

っとデザイン的によろしくないのは確かです。かえってこのパンフレットの表紙のほうがポスターよりもすっきりしていてわかりやすいし、確かにポスターを見てそれだけで応募するという方はいないと思いますし、パンフレットが横に多分置いてあるでしょうから、それを持ったりとか、インターネットで調べたりとかするので、もしこういう写真を入れたいのだったら選んで、こんなに全部紹介しないで、何か入れるとかのほうがいいと思います。このポスターのデザインはデザイン賞にふさわしくないから、もう少し考えていただきたいと思います。情報としてはいっぱい詰まっているのだけれども、ポスターというのは情報だけではなくて、視覚的に胸にきゅんとくるほうがいいので、そういう方向を狙っていただきたい。あと、パンフレットのほうには情報はいっぱい入れなければいけないと思うので、それはお願いしたいです。

○事務局 ポスターのほうなのですけれども、第5回くらいまでは写真が入っていない、もっとすっきりした感じだったのです。第6回くらいから写真が入り始めていて、恐らくこのデザイン賞というのがポスターだけ見て何だかわからないからということで、どうやら写真を入れた経緯があるそうなのです。私もこれをやってみて、事務局の中でも写真があったほうがいいか、ないほうがいいか、今おっしゃっていたように幾つか限ったほうがいいのではないかという意見もありまして、このポスターだけで応募をもし促さないのであれば、とってしまうというのはあるかなと個人的には思っています。

○植松委員 今さっき、ポスターはこの判ではないとおっしゃいましたよね。

○事務局 A2サイズです。

○植松委員 A2判ですよ。A2判というのは、地区センターとかそういうところに貼るときにはすごくいいと思うのですが、さっきからおっしゃるように、すごく目立つのだけれども、一方で何をやっているかはよくわからないというか、応募するためのツールにはならないというところが痛しかゆしで、私どものような者から見ると、案外A4判のサイズというのが役に立つのです。それこそ写真は抜いてしまってもいいのです。この状態のポスターで、A4判で結構なので、それから裏は白で構わないので、そのかわりそれを自治会・町内会の単位まで配ってくださって、掲示板に貼るというふうにすると、何かわからないけれども、少なくともこういうことが行われているということは確実に周知できて、そしてその上で気持ちのある方はごらんになるなり何なりして、結構権威のある賞なのだ、では誰かがやっているのだったら褒めてあげようというふうにもなると思うのです。自治会・町内会の掲示板って、貼るものがすごくありますから、A4サイズがいっぱいなのです。裏に何か書いてあってもそれはもう見られませんから、A4判1枚で結構ですから、それを自治会・町内会の掲示板の単位までおろしてくださると、随分広報できると思います。

○宝田委員 デザインの件で、格好いいデザインか、あるいは市民にとって身近な感じのする、どんなものを行っているのかなというデザインの、どちらが重要なのかなということがあるのだと思うのです。その辺で、これは人それぞれだと思うのですけれども、やはり市民の方々は、デザイン賞で、すごく格好いいデザインがあって、それを見て応募するかというと、ちょっとわからないような気もするのです。景観部門のほうはもしかするとデザインが格好いいほうがいいかもしれませんけれども、まちづくり部門のほうは少なくとも活動の写真がないと、皆さん募集しないのではないかなという気が私はするのです。ですので、まちづくり部門に関していえば、こういう写真が入っているほうが、自分たちも何か募集できるかもしれないというふうには思うのではないかなとは思っています。ですので、多分景観部門に応募される方と、まちづくり部門で応募される方が違うのかなという気が私はしています。ちょっとわからないですけれども、まちづくり部門でいうと、入れたほうがきつといいだろうと思います。

○奥村部会長 そうですね。それは私も思います。

○中津委員 これを見ると、デザインという言葉が絶対メインだと思います。メインに捉えますし、掲示板にA4判しか貼ってくれないのは当然なのですけれども、そうするとデザインって自分たちの活動と関係ないなと絶対に思います。それで、A4判で貼られることを考えたら、やはりまちづくり系のこととまちなみ系のことを、A4判にしたら写真は全然見えないわけですから、大きな1部門だけをぼんぼんと、1作品、1案件だけを2つ挙げて、あくまでもこの賞というのは、まちづくりとまちなみをパラレルに捉えるということなので、やはりパラレルという、ポスターの基本は線対称というか、センタリングという感じがするので、まちづくりの写真1つとまちなみの写真1つで、例えば「人」と書いてあるところの下に括弧して「まちづくり」と書いて、「まち」と書いてあるところの下に「まちなみ」と書いてあるだけでも、ソフトなこととハードなことの両方を応募できる賞なのだということ、デザインという言葉を引きずらないで応募するようなメディアになるのでは

ないのかなという気がします。それが、ヒエラルキーがあろうがなかろうがどうでもいいのですけれども、人ということと、まちということがそれぞれ1つずつ案件でわかるような、自分たちのやっていることに関係があるんだよね、デザインと書いてあるけどまちづくりでもいいんだよねとわかるようなことを、A4判でわかるようにするのは重要なと思います。

○齋藤委員 やはり象徴的な写真があるとすごくわかりやすいかなと、お2人のお話から感じましたし、今先生がおっしゃったような表現の仕方はすごく伝わりやすいのかなと感じました。

○奥村部会長 関部会長、いかがですか。お願いします。

○関部会長 第8回目は景観の作品を多く選び過ぎて、大体6ぐらいだったのが8にふえたので、レイアウトで大変だねということはそのときも予想していたのですけれども。ですので、中津委員の、メインタイトルとしては「横浜・人・まち・デザイン賞」なのだけでも、どちらかという地域まちづくりということと、まちなみの景観というところのほうが大事なので、それを人、まちという言葉にしてしまうとちょっとわかりにくくなると思います。それはメインのタイトルとして残しておいてもいいのだけれども、むしろそれをサブタイトルの的にして、地域のまちづくりの人の活動とまちなみの景観、そしてデザインという言葉も抜かすことはできないと思うので、ただきれいなものをつくるという意味でのデザインではないということがわかるように、そういう誤解を与えないように訴求方法を少し考えていただければと思っています。

それと、写真はセレクトしていいと思うのです。受賞作品、それはこちらのリーフレットの中に入っているのですよね。ポスターからは象徴的な、1つないし2つに絞って、ビジュアルも大事なので、イメージも入れていただいてもいいと思いますけれども、同じものを繰り返す必要はないかなと思います。

それから、A4サイズのフライヤーは安くてもいいので大量頒布を、おっしゃるとおりだと思います。普通、大学なんかに来るのは、大体このA4判のフライヤーとかで、ぱっとラックに差し込んだりして、そういうこともあるというので、リーフレットも上のほうにタイトルを見えるようにとやったと思うのです。これ1枚でも何かわかるみたいな。特に今まで送られていなかったところに新しく送られると、こういうのがあるのだと目立ちますよね。なので、それが可能ならばやっていただきたいと思います。

あと1点、「募集にあたって」という文章を書かせていただいて、20字くらい余っているのですが、今からでも早急に、来週頭にでも原稿を差し替えはできますか。

○事務局 大丈夫です。

○関部会長 今日のいろいろな議論を踏まえて、もうちょっとチャーミングな言葉にして、読まれるか読まれないかはわかりませんが、筆者として書き直させていたきたいので、もし皆さんからのご意見があればお願いします。

○奥村部会長 いえいえ、ありがとうございます。この賞自体が地域の活動に波紋を広げていく、文化になっていくというようなことと対をなすわけですが、この広報についても町内会単位で配っていただくと。今自治会があるのが2800程度でしたでしょうか。

○石津書記 はい。

○奥村部会長 お願いできるとありがたいかなというふうに思います。そのほか、ロゴの関係もあるので、簡単には直せないのかもわからないのですけれども、さっき中津委員がおっしゃってくださった「人・まち」の下に例えば地域まちづくりとか、「まち」のところにはまちなみ景観とかいう、そんな説明が一言入るだけで意味がわかりやすくなるという意見がありました。

○中津委員 こんな感じ。

○奥村部会長 あ、もうデザインされていますね。

○中津委員 パラレルになったらできるかな。こうするとパラレルになるから。

○奥村部会長 センタリングにこだわるということで。

○事務局 1つの写真を選ぶという話なのですけれども、今回はまちなみのほうが歴史系や、橋、活動が景観にみたいなものも混ざっていて、1つを選ぶのが難しく全部出したという経緯もありました。仮に1つ選ぶとしたら、今の議論だと、「夢の舞う岡」あと、「みなまき みんなのひろば」もこの広場が割と活動として使われていたりしますので、そのどちらかかなと、今話を聞きながら個人的には思ったのですけれども、いかがでしょう。

○植松委員 私もそのように思います。

○中津委員 それはそちらにお任せします。

○事務局 わかりました。

	<p>○植松委員 昨年、ご存じのとおりですけれども、横浜市内で5区、90周年を迎えました。私は神奈川県に在住しているのですが、神奈川県は本当にいろいろなことをして、神奈川県内でよいと思われる景観というのを30カ所、40カ所選びまして、区民が投票するというのをしたのです。ですので、皆さん、身近にいい景観、私どもで言えば定番の反町公園とか三ツ沢公園とか、そういうのはよくご存じだと思うので、それとこのまちなみ景観とが違うのだというところを、もう少しうまくアピールできるといいなというふうに思います。</p> <p>○関部会長 あとは、リーフレットの受賞活動で紹介している例は少なくとも外していいのではないのでしょうか。重複してしまうから。プレイパークとサクラ、それ以外のところでセレクトしていただければ。</p> <p>○奥村部会長 ありがとうございます。それではリーフレットのところ、それから広報についてのところまで、これで一区切りにしてよろしいでしょうか。まだまだご議論いただきたいことが、それぞれの委員さんにおありだと思うのですけれども、時間に限りがありますので、この辺で事務局のほうにお渡しをしたいとします。</p> <p>議事3 その他</p> <p>○石津書記 では事務局のほうで、議事に(3)でその他とございますけれども、特に本日はございません。</p> <p>本日の議事内容ですけれども、一言でまとめるのは難しいのですが、そもそも賞の意義とかあり方とか、あるいは受賞した団体のことを今後どう活用していくかということから、ポスターのデザインに至るまで、大変幅広いご意見をいただいたのかなと思っています。これについては、特にポスターとかリーフレットに関しては、時間がない中ですが、いただいた意見を丁寧に確認した上で事務局のほうでできるだけ総合的に、ご意見を踏まえた内容になるように至急修正等をかけていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>あと、本日の議事録については、横浜市の保有する情報の公開に関する条例に基づき、審議会の議事録についてあらかじめ指定した者の確認を得た上で、それを閲覧に供することとなっておりますので、議事録は今回両部会長の確認を得ることとさせていただきますので、よろしくお願いたします。</p> <p>閉 会</p> <p>○石津書記 それでは、これもちまして、平成29年度横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会及び横浜市都市美対策審議会表彰広報部会合同部会を終了いたします。どうも本日はありがとうございました。</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・名簿 ・座席表 ・資料1：横浜・人・まち・デザイン賞の概要 ・資料2：横浜まちづくり顕彰事業の推移 ・資料3-1：スケジュールについて ・資料3-2：地域まちづくり部門選考実施概要(案)(フロー) ・資料3-3：選考方法等について ・資料4：各部会が出された主な意見とその対応について ・資料5：募集リーフレット案 ・資料6：募集ポスター案 ・資料7：広報について ・資料8：横浜まちづくり顕彰事業実施要綱 ・資料9：横浜まちづくり顕彰事業実施細目 ・資料10：第11回横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会議事録 ・資料11：第12回横浜市都市美対策審議会表彰広報部会議事録
特記事項	<p>本日の議事録については、両部会長が確認する。</p>